宇検村史年表

※本年表はおもに近代から現代にいたる宇検方・焼内村・宇検村の歩みをまとめたものです

1609 慶長14年
- 島津軍の奄美への進攻により薩摩藩の直轄支配となる行政区画は琉球王国時代の屋喜内間切を宇検方と大和浜方に分け、それぞれに与人を置く

1659 万治2年
- 奄美大島の7間切に間切間横目を置く
この頃、屋喜内間切を宇検方と大和浜方に分け、それぞれに与人を置く

1702 元禄15年
- 宇検に厳島神社が建立され、祭神に弁財天が祀られる

1727 享保12年
- 奄美大島の検地が行われる（生勝の検地帳が残されている）

1865 慶応元年
- 須古に白糖工場が建造され、慶応3年から2年間白糖を製造し、その後廃止される

明治 MEIJI 1868 ～ 1912

1869 明治2年
- 田検で大火が起こる

1871 明治4年
- 廃藩置県が行われる

1873 明治6年
- 島役の与人を戸長、間切横目を副戸長と改称

1874 明治7年
- 奄美群島の詰役が廃止され、薩摩藩支配が終わる

1875 明治8年
- 名瀬に大島大支庁が開庁（第90大区）し、鹿児島県政が始まる。宇検村域は第3小区宇検方となり、戸長・副戸長を推薦選挙

1878 明治11年
- 従来の官選を民選によって戸長・副戸長を置く（役場は学検にあり）

1879 明治12年
- 下等小学校が、宇検・須古・名柄・阿室に設置

1880 明治13年
- 奄美大島他4島を「大隅国大島郡」とし、郡制を施行

1881 明治14年
- 官選により宇検方13か村を5区に区分して5人の戸長を置く

1883 明治16年
- 5区を3区に改め、3人の戸長を置く
- 役場を宇検（名柄の2か所に置き、戸長は民選とする。宇検役場（大和村志戸勘、今里より湯湾まで）、名柄役場（須古より屋鈍まで）

1887 明治20年
- 宇検役場・名柄役場を合併して役場を田検に置く。ことし8・志戸勘、今里は大和浜方に含まれる

1900 明治33年
- 屋鈍で鰹漁が始まる

1908 明治41年
- 島嶼町村制実施。従来の宇検方に、西方のうち西古見・管鈍・花天・久慈・古志・篠川阿室を併せて焼内村と改め、役場を名柄に移す。
- 戸長を村長、副戸長を収入役に改称

1912 明治45年
- 阿室郵便局創立。業務内容は郵便・電信・為替貯金事務取り扱い

大正 TAISHO 1912 ～ 1926

1914 大正3年
- 湯湾の郵便業務取り扱い所を湯湾郵便局と改称

1917 大正6年
- 1917年11月 宇検村誕生
- 役場を宇検村と改称し、宇検から屋鈍までの14集落で構成。役場を湯湾に移す

1918 大正7年
- 宇検村から最初のブラジル移民出発

昭和 SHOWA 1926 ～ 1989

1930 昭和5年
- 特村産業組合（所在地、湯湾）設立。事業内容は塩売・購買・信用・利益・農機具・衣料品取り扱い（鍋・釜・船・農業・医療施設）

1934 昭和9年
- 平田で大火があり集落全体が焼失

1936 昭和11年
- 国から芋検の当間田袋が献穀田の指定を受ける

1937 昭和12年
- 宇検郵便局にて電話交換事務開始

1938 昭和13年
- 宇検村を含む奄美初の分郷開拓団が旧満州へ出発

1941 昭和16年
- 12月8日 アジア太平洋戦争起こる

1944 昭和19年
- 8月 沖縄の学童疎開船馬丸が悪石島近海で魚雷を受けて沈没。焼内湾にも漂流物や遺体・遺品が流れつき、生存者が救出される

1945 昭和20年
- 米軍の空襲で田検の下部員が全焼
- 生勝の尾鍛に神風特攻隊の飛行機が不時着

1946 昭和21年
- 8月15日 戦争終結
- 11月 奄美群島を含む北緯30度以南の南西諸島は米国軍政府の占領下となる
- 米軍統治下において、軍政府が首長・議員の総選挙を指令
- 宇検村でも村長・村会議員の選挙を行う。

1948 昭和23年
- 本土から奄美群島が分離され、本土への渡航が全面的に禁止
- 小学校は久志・田検・須古・名柄・阿室の五か所に置く
- 中学校は田検に宇検中学校が置かれ、久志・須古・名柄・阿室には宇検中学校の分校を置く

1950 昭和25年
- 11月 琉球列島軍政府令により、奄美群島政府設立

1951 昭和26年
- 宇検村産業組合の解散に伴い、宇検村農業協同組合発足
- サンフランシスコ講和条約の締結を前に全部で日本本土への復帰運動が高まり、宇検村でも復帰協議会の支部発足